

平成30年度第2回花巻市健康づくり推進協議会会議録

1 開催日時

平成31年2月26日（火） 午後1時30分～午後2時25分

2 開催場所

花巻市南万丁目970番地5

花巻保健センター1階 多目的ホール

3 出席者

(1) 委員 15名

三浦良雄委員(花巻市医師会・会長)、川村優子委員(花巻市保健推進委員協議会・会長)、佐藤正昭委員(花巻市民生委員児童委員協議会・理事)、村田和代委員(花巻市学校保健会・会長、西南中学校長)、遠藤敦士委員(花巻青年会議所・理事長)、小田島克久委員(花巻市社会福祉協議会・事務局長)、伊藤成子委員(花巻市食生活改善推進員協議会・会長)、坂本秀樹委員(花巻市薬剤師会・副会長)、鎌田智恵子委員(岩手県看護協会・花巻支部長)、八木浩委員(花巻商工会議所・企画振興課長)、高橋幸一委員(花巻市スポーツ推進委員協議会・会長)、小瀬川ちはる委員(花巻市法人立保育所協議会・理事)、藤原美鈴委員(花巻市立幼稚園協議会・理事)、佐々木孝子委員(公募委員)、鎌田修委員(公募委員)

(2) 市・事務局 8名

及川健康づくり課長、植田課長補佐、藤田課長補佐兼係長、冨手課長補佐、瀬川主任主査兼係長、及川係長、蟹澤係長、横田係長、

(3) 傍聴者 なし

4 会議の概要

(1) 開 会

冨手課長補佐が、協議会の開会を行った。

(2) 挨拶

及川健康づくり課長が挨拶を行った。

本日はお忙しいところ、第2回健康づくり推進協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

皆様方には日頃から市の健康づくり事業に対し、ご支援、ご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

自殺対策計画の策定につきましては、昨年9月に骨子案によりご説明させていただき、その後、素案作成に向け、市の各課及び関係機関と連携して作業を進めてまいりま

した。このたび、ようやく素案が出来ましたので、本日皆様にご説明申し上げるところでございます。委員の皆様には、どうかご忌憚の無いご意見を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(3) 協 議

三浦会長を議長として進行

三浦議長

それでは、進行させていただきます。

会議に先立ちまして、「花巻市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき本会議を公開とすることにご異議ございませんか。

異議なしの声あり

三浦議長

異議なしということですので、本会議は公開といたします。

次第3の協議に入ります。

(1) 花巻市自殺対策計画素案について議題といたします。事務局より説明をお願いします。

及川係長が別紙資料に基づき説明を行った。

三浦議長

では説明について、委員の皆様からご意見・ご質問を受けたいと思います。どなたかございませんか。

鎌田修委員

実は私、3番目の子供を自殺で亡くしました。終わった後で、「何か気づかなかったか。」とみんなに聞かれましたが、全然気が付きませんでした。

ひとつお願いしたいのが、学校教育の中で、不慮の事故でも何が原因でも、お子さんが亡くなったときにその親たちが悲しむということを、何かの機会に教えることが出来たらいいのかなという感じがしております。

先ほどから、たくさんケアの話が出ていますけど、自殺だけじゃなくて、事故だったり病気だったりで亡くしている親御さんたちが、意外と知らないですが、結構いるようです。私は、その方々の励ましのおかげもあり3年くらいで立ち直れるようになったのです。いずれ、普通に仕事に行って、普通に生活していて、ある日突然に亡くなったという状況だったので、一緒に暮らしている親でさえ、精神的に病んでいるという状況が発見できなかったです。

一番大事なのは、自分の命が尽きたときに、家族の人たちだったり、友達だったり、周りの人たちだったり、悲しむんだよというのを、何かの機会に教えるのがいいんじゃないかなと思います。

三浦議長

ありがとうございます。どうですか、今の意見に対して何かありますか。

佐々木孝子委員

以前も言いましたが、私も実父が自殺しておりまして、鎌田さんと同じように気づかなかったけど、いろんな悩みは深かったみたいでした。亡くなると、命を絶つと家族が悲しむよっていうことを伝える他に、自殺というのは、どんなに徳を積んでも悪だそうです。なので、住職さん、保健師さんを含めて、実は楽じゃないんだよというのを広めていけたらなと思います。

三浦議長

亡くなった原因がはっきりわからないというのは、難しい問題だと思いますけど。いかがでしょうか、何かございませんでしょうか。

村田和代委員

花巻市学校保健会の会長をしております、西南中学校長の村田と申します。

先ほどの自死の話ですが、岩手県は東日本大震災を機会に、命の教育にすごく力を入れております。それから、何年か前に県内で生徒を2人、自死で亡くしました。自殺防止は、どこの小学校も中学校もすごく力を入れて「自分の命、人の命」ということを、教えるだけじゃなく、子供たちにも考えさせながらやっているところです。

確かに、その子の生き方とか、周りのその子との関わり方には力を入れてやってきたんですが、その子の家族の事というのは確かに足りなかったのかなと思います。

北上市の子供が交通事故で亡くなったというのがありましたが、どこの学校でもそうだと思いますが、その子の家族の思い、事故を起こした運転手側の思い、みんなの命がつながっているんだ、関わっているんだという話は道徳でも行いますし、いろんな講話の中でも子供たちに伝えるようにしています。

あと、正式名称は忘れましたが、遺族の会というのがあって、交通事故等でお子さんを亡くした親御さんが学校をまわってお話しをする機会があります。そういう機会をとらえながら、学校でも命の大切さ、命のリレーというか、関わっている人全ての思いを感じてもらえるようにやっていきたいと思いました。

三浦議長

一般の、普通の人の精神でいえば、自殺をしてはいけないということは重々わかっているだろうけども、追い詰められたときにそのところを忘れてしまう、自死を選んでしまうのかなと思うんです。気持ちを分かってあげられないのが、今の現状なんだろうなと思

ます。そこを早くわかってあげて、追い詰められたときにですね、その人と向き合ったときに、本当にその人をわかって話してあげられるのか、と思いますがいかがでしょうか。

小瀬川ちはる委員

保育園関係で参加させていただいております。今、すごくお母さんたちが忙しくて、なかなか心が休まることがないんじゃないかなと思います。私たち、幼児教育に関わっている者であれば、やっぱり毎朝出かけるときに必ず目を合わせて挨拶をしてほしい。その理由は、お母さんと目を合わせて、おかえり、ただいまと言葉を交わすことが出来なくなることもある、それは3. 11を機会にして、いつ自分の身に降りかかるかわからないということを想定しながら、常に出掛けるときはいつてらっしゃい、帰って来たときはただいま、それから小さいうちから教えていきたいなと感じているのは、みんな、愛されて生まれてきたんだという自己愛ですね、誰でも必要として世の中に生まれてきたんだよということを、子供たち一人ひとりに、呼びかけていかなければと。自分はもう必要ないんだと思ったときに心が折れてしまうんじゃないかなと非常に感じております。

一人ひとりが愛されてこの世に生まれてきたんだよ、そして、誰にとっては大事な人なんだよということ、それから自己肯定感、それをやっぱり小さい時から子供たちに少しずつ遊びながら、自信を持たせていって、そして自分の心を自分の言葉でもって、親であっても友達であっても誰か話のできる人に伝えられる勇気、そういう機会を育成していくことが、大人になってから、この人に言えば助けてくれるんじゃないかなとか、この人に話すればわかってもらえるんじゃないかなというふうにつながっていくのではないかと感じております。

ですから、大人もいろんなアプローチがあると思いますが、小さい時から自己愛とか自己肯定感とかきちっと身につけさせていきたいなと、今の現場で思っているところでございます。

三浦議長

ありがとうございます。

市で自殺対策計画素案を作っているわけですが、計画に対してどう思っているか話し合っていきたいと思っております。

小田島克久委員

社会福祉協議会の小田島です。

私どもで相談業務を担っている中で、そのような自殺のリスクを抱えた方との相談が非常に多いということも、前回の協議会でも話したと記憶しています。そういう意味では、こういう計画という形で活字になって出るというのは、相談を受ける側としては非常に心強いというかですね、マニュアルではないんですけど拠り所になるのかなと感じております。

よく相談している中では、同じ法人内では情報の共有ができると思うんですが、様々な機関が入った場合、個人情報の関係があって、ネットワークあるいは情報共有と言いな

らもなかなかそういうのが壁になっていると感じています。

当然、命に勝るものはないので、計画の中でそういうことが決められているのか教えていただければと思います。

及川課長

計画の中には、特に個人情報の取り扱いは定めておりませんが、市の場合は、個人情報保護条例というのが規定されております。本人の命に関わる場合は、個人情報の外部提供は可能となっております。本当に危ない場合は、相談機関で連携して対処しなければならない部分はあると思いますし、それまでいかない部分であれば、自分の部署で対応できないときは他の窓口を紹介するわけですが、事前に担当者同士で詳細でなくてもこういう方がいるよと、相談する方にも、両方きちっと繋げてあげなければならないということを、私ども常々言っております。市役所だけではなく、他の市役所以外に橋渡ししたときに、担当者同士でも、細かくなくてもこういう方がいるからと照会することにより連携が可能じゃないかと思います。

三浦議長

ありがとうございます。質問された方、よろしいですか。

事務局に伺いますが、新しいリーフレットなんですけど、どこか相談があったということはありませんか。相談が何件あったとか。

及川係長

こちらのリーフレットは、実は作成したばかりのものでございます。10,000枚、市では作成しましたので、これから普及啓発を行っていきたくて考えております。もしよろしければ、学校関係者とか保育園に通っている子のお父さんお母さんだったりとか、あとは職域の方には、献血のときにリーフレットを配るようにしたいと思っております。

相談件数について、集計はしていないところです。

三浦議長

何か、他にございますでしょうか。

小瀬川ちはる委員

ゲートキーパー養成講座と書いてあるんですが、これは何人くらいを予定していらっしゃるのでしょうか。

植田補佐

概要版の2枚目ですが、目標としてはゲートキーパーの養成回数を書いてあります。通いの場の方でも参加人数が様々なので、その中でも規模があるところから、だいたい20～30人くらい集まっていらっしゃるようなので、その人数掛ける回数になります。

市職員は、年に1回のペースで養成講座をやりたいと思っております。

市民の方にも、出前講座というところで周知いたしますので、地区の方が何人集まるかわかりませんが、そこに対応しながらやっていきたいと考えております。

小瀬川ちはる委員

養成は、何人を目標にと考えておりますか。難しいことだとは思いますが、ゲートキーパーはたくさんいればいるほどいろんな連携ができると思いますので、そのところはわかっていたらいただければと。

植田補佐

はい。目標人数はこれから出してみたいと思います。ありがとうございます。

三浦議長

出前講座の講師はどういう方を考えておりますか。内容や項目とかについては。

植田補佐

現在のところでは、市職員と考えております。基本的な項目がありますが、ゲートキーパーの役割というところや、あとは対象者に合わせてわかりやすく説明できればと思っております。

三浦議長

市民全員を対象にするっていうのは考えていますでしょうか。

植田補佐

そうなんですけれども、生涯学習課のまなび学園で行われている出前講座により周知をかけるので、来てほしいというところに出かけて行くということになります。

三浦議長

他に何かございませんか。

ここにいる委員の方々は職域、教育関係、関係団体というところなんだろうけれども、職域の方でメンタルヘルスとか何か対策とっている方はおられるでしょうか。

村田和代委員

学校関係、教員のメンタルによる病休や休職は非常に全国でも岩手県でも多いです。何が原因かと言うと、やっぱり忙しいことです。ここまでという限度なく子供のために、地域のために働く気持ちが強いということもありますし、最近は様々な保護者の要望も多岐にわたってあり、学校では対応しきれないと言えない状況にあるので、全部学校が抱えて教員にしわ寄せがいくという現状です。今、国でもサポーターの方を校内に配置するという動きがあります。市内でも、例えば部活動指導員が入るとか、サポーターが入るとかしながら改善を図っているところですし、そういう特別な配置がないところでも、簡略化す

るところは簡略化する、できないって言うことも言うとか、やめるとか減らすとか、目に見える取り組みをしているところです。

ただ、気持ちを抑えるだけでは、全然解消にならないです。ですので、具体的にそういうふうにしなから、地域の方にも理解をいただきながら進んでいるところですが、ほとんど忙しさは変わらない状況です。あとは、同僚、職場の空気、お互いを助け合って生かされて、充実感というのが多忙感の解消になるのかなと取り組みはしております。

教育関係だけじゃないと思います。お医者さん見てもそうだし、育児についてもそうだし、みんな余裕がない世の中なので、何かをやめる・減らすもそうだし、人を増やすもそうなんですけど職場の環境づくりがすごく大事ななと思いながら過ごしているところです。

三浦議長

ありがとうございます。

社協さんの方で何か取り組みされているようなことはありますか。

小田島克久委員

そのとおり、ここにあるメンタルヘルス対策は2年前から義務付けられて取り組んでいると思いますが、産業医がいますので、判定が出た者で希望する人は相談するという形で、プライバシーを保護しながら取り組んでおります。

4月から働き方改革関連法案が段階的に施行されることになってくるという中では、やはりそこを意識した職場環境づくりをしていかなければならないなということで、いろんな規定改正も視野に入れて取り組まなければならないなと思っています。

確か、労働時間45時間で勤務時間のインターバルも11時間以上開けなさいということで、例えば10時まで残業すれば次の日は9時出勤というようなことで、その辺を意識した勤務にしなければならないことと、私たちの職場は8:30~17:15までが基本的なラインなわけですが、ヘルパーさんとかは夜とか朝の勤務もあって、難しさというのがあります。まだまだ不十分ですが、やはりそういうところを意識しながら職場環境の改善に取り組んでいかなければと考えております。

鎌田智恵子委員

看護協会の方ですけども、ここの事例の中にもありますように、病気を持つ方の、それから経済的に苦しい方の、ほんとに高齢者の方ですけど自死に至る方が多いっていうところでは、看護の現場では、患者さんが病気で苦しんだり、それから独居とか高齢者世帯で大変なときとかは、お声がけをする他に、ケアマネジャーさんとか地域につなぐ方々がいるときにはそういう情報をお互いに共有して、ちょっと元気がないとか、少し変だとか、情報共有に努めています。ここのパンフレットにもありますが、それぞれの施設や一般病院とか管理者も情報共有しながら、看護協会の方では年2回、主にメンタル的なところの研修会を開いて、患者さんの心がわからないということがないよう、患者さんとかご家族を診るようにしています。さらに深めて継続的にやっていきたいと考えています。

三浦議長

はい、ありがとうございます。

市民の方々のそういう不調とか困窮とかを気づくような活動っていうかネットワークが必要ですね。民生委員さんはどうでしょうか。何か話し合ったこととかありませんでしょうか。

佐藤正昭委員

それぞれのところでサロンや介護でいう通いの場というところがあります。やっぱり、交流することによって自分の心を見つめるというか、話すことによって救われるということがあると思いますので、そういうところを大事にしながらこれからもやっていく必要があるのかなという感じがします。

重点施策とか計画されたものについては、数値目標にあまりこだわらないで、一人でも多く、というところを大事にしていけばいいのかなっていう気ががします。あくまでもそこが大事だよと、達成できたかできなかったかというところではありますが。民協の方だけということではなくて、見守られていることは、子供でも大人でも高齢者でもやっぱり必要なことかなと。見守られているっていう眼差しを感じられれば、人間はどっかで何とかなるのではないかなって気もします。ですから、見守るっていう体制、それから眼差しを届けるっていうところをいろんな場所でやっていただければと思うところです。

それから、私が興味あったものですが、子供たちが6年生のときに伝えたことです。一つは受け継がれた命なんだということ、確かに自分の命なんですけど受け継がれた命、それぞれ父親と母親がいるから8人、ずーっといくと何千人もの命がつながってきたから、今の自分が生きている。子供たちに伝わったかどうかわからないんですが。それともう一つは、受け継がれた命なんだけど、限られた命だよということ。この二つのところかなと思いますので。ほんとに最後まで行けば生き抜くんだということですが。いろんなところで連携すれば、困っている人へ眼差しを届けられる政策を進めていけばいいのかなと感じています。

三浦議長

ありがとうございました。たいへんいい意見をいただきました。今のご意見が基本になるのではないかなと思いますが、いかがでしょうか。

他にないようであれば、こんなところでまとめていただいてよろしいでしょうか。

眼差しをもって、一人でも多くの自殺を防ぐ、とうところで自殺対策を進めていただきたいというところで、もし意見がなければ協議を終わりたいと思います。

(3)の協議を終了し、議長は退席した。

及川課長

たくさん貴重なご意見頂戴してありがとうございます。次の段階として、本日皆様から頂戴しました意見と、自立支援相談部会からもご意見を頂くということにしておりますの

で、二つの会から頂いたご意見を健康づくり課内で検討のうえ、必要と考えられるものは素案に反映し、大変忙しいところ申し訳ありませんが、来月19日に協議会を開催させていただきますので、その場で計画案を提案させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(4) その他

富手課長補佐が、「その他」について委員に諮り、委員からは何もなかった。
次回の開催時期は、平成31年3月19日と連絡した。

(5) 閉会

富手課長補佐が閉会を行った。